

はじめに

わたしの自己紹介

わたしは大阪府立大学・産学官連携機構・先端科学イノベーションセンターに所属する教員です。専門は放射線化学ですが大学時代は高分子化学を勉強しました。最近ではDNAの放射線損傷に関する研究をやっています。ガンや老化にも関心があります。ただしこれは一人の研究者の力で解明

できるほど、なまやかしい研究分野ではないので、正直にいいますと研究の進展状況がわかる程度に遠くから様子をうかがっています。最前線の研究に手をだすことは能力的にもできません。二〇〇〇年程前から所属の名称が二転、三転

二〇〇〇年程前から所属の名称が二転、三転

いまから二〇年ほど前の一九九〇年に、当時の大阪府立放射線中央研究所が廃

止になって府立大学の「附属研究所」に変わりました。その後「先端科学研究所」

に名称変更して組織も充実しましたが、三年前に府立大学が法人化するなかで、現在の組織に再編されました。英語では内閣改造のことを「シャッフルする」といいますが、シャッフルよりはもう少し大きな改革でした。所属の名称はこのように二転、三転しましたが、ひとつの職場に三十年以上わたって勤めることができましたことは幸いでした。

新シリーズの連載開始にあたって

思い起こせば研究所に職を得てからの三十有余年はあつという間でした。一度ならず二度にわたって、(望んでもいないのにそれもムリヤリに) 職場の大きな変遷を体験させてもらいました。こういうときに人はどういふ行動をとり、対応するものかじっくり観察



先端科学イノベーションセンター研究センター棟

することができたので、人間を観察する能力は飛躍的に向上したと思っています。国内外に多くの知人や友人をもつことができました。長期・短期の海外出張で各国の歴史や文化に直接ふれることができて「百聞は一見にしかず」「見ると聞くとは大違い」を実感してきました。そういうところに目をつけられたのか、口がわざわいしたのか知りませんが「本庁ニュース」の編集長さんの目にとまり、過去に三回(編集部注)、「本庁ニュース」に連載ものを執筆させていただき感謝しています。

【編集部注】過去三回の森利明さんの連載記事は左記のとおりです。

(1) 「サイエンティストの目ーアメリカから見た日本」①～②〇 一九九六年

(2) 「僕の講義ノート」①～②4 二〇〇一年

(3) 「続 僕の講義ノート」①～②8 二〇〇三年～二〇〇四年

わたしはいわゆる団塊の世代で、来年にはめでたく還暦を迎える予定です。たぶん「本庁ニュース」にエッセイを投稿させていただくのはこのシリーズで最後になると考えています。前回(「続 ぼくの講義ノート」四年前の九月で終了)までに書き残したことや新たに体験したこと、伝えておきたいことなどを、またしばらくの間この紙面をおかりして書いていきたいと考えていますのでよろしくお願ひします。

(もり としあき)

続



サイエンティストの目 ①

森 利明
(もり としあき)

大阪府立大学 先端科学
イノベーションセンター